



北海道の道路並木

①

松 井 善 喜

並木はドライブウエイに、春の新緑、夏の緑蔭、秋の紅葉、冬の裸木と季節の趣きをそえ、車の騒音を緩和して、スピードイナ生活に大自然のうらおいと調和を感じさせる。

北海道の風景は大陸的で、ひろびろとした水田やおおらかな高原の畑をぬって、道路が延々とつづいていく。並木は単調な田園風景に立体的変化を与え、大空にそびえ、枝を拡げた並木は大地の豊かな力を美しくもりあげて、直線的な人工の道路にやわらかな落ちつきをそえている。

元来、日本人は樹を植えることが好きで往古から、公道に並木を伝統的に植えている。#広重の絵#で有名なマツの並木は北海道のみでなく全国各地に広く見られた。また、日光のスギ並木や奥羽の羽黒山のスギ老木の並木など、社寺に通ずる公道に植えたウツソウたる並木は、徳川三百年の太平時代から変遷の激しい世相に超然としてそびえ立っている。

しかし、往時の公道のマツ並木には、諸藩の軍略的意義もあつたようである。敵の進撃阻止の必要な場合、公道のマツはたちまち両側から伐り倒されてりつぱなバリケードができあがり、道路の両側の水田のぬかるみは兵馬の進軍を容易に許さない。一方、味方は後方陣地の構築や、橋や渡河イカダなどの応急用材を伐り出す便利さがあつた。

また、街道では往古から一里ごとに塚を植えて、いわゆる一里塚として樹木を植

栽し、旅行く人々に休息の緑蔭をつくつた例があつた。北海道でも、幕政時代に室蘭から千歳街道にかけて、道路標識としてアカマツを植えた例があり、錦岡へんにはこれらのアカマツが多数の後継樹を更新して天然林のような生態を呈している。

本道の道路並木には函館——七飯の国道のアカマツのように、本州の古風なマツ並木に準じて植えられているものもあるが、最近の道路並木の多くはドライブウエイのスピードに適合させた洋風のものである。

北海道開発局の統計によると、昭和四十一年までに国道に植えた並木の樹種は表①のごとくで、多い順に記せば、ナナカマド、ニセアカシヤ、ポプラ、サクラ、クロマツ、ネグンドカエデ、ヤチダモ、カラマツなどを主体に三五種、四万四千本となつている。これら並木の樹種は、酷しい気候、病虫害、除雪などにたいし抵抗性の大きなものが多いとともに、樹種によってそれぞれ風

格が異なるので、風土に応じ、道路に似合つた趣きのある樹種が植えられている。並木用樹種にはサクラ、カエデなどのように従来から多数の園芸品種に改良されているものもあり、大衆に愛好される一層風致的な並木とするには、花や果実や紅葉の美しい樹種を選んで、積極的な保育を考ふる必要があろう。

国道並木の今後の植栽計画は表②に示されるが、これら樹種について簡単な二、三の説明を加えよう。

ナナカマド 早春、他樹種に先がけて若葉を開き、やがて

緑に開ききつた羽状複葉の間に、ソソたる白い花の繖房花序が開花する。秋の紅葉も美しく、初冬の紅珊瑚の玉をからげたような可憐な実は白雪のなかに紅色も鮮やかで実をついばむ小鳥が群れるのも愛らしいものである。ナナカマドは分布の広い樹種で、高寒地

表① 国道並木の現況

(昭和41年11月現在)
(在の植栽済並木)

並木樹種	本数
ド	5,912
マ	5,362
カ	5,057
シ	3,216
ヤ	3,100
ラ	2,821
ブ	2,728
ラ	2,401
ツ	2,246
エ	2,127
デ	2,058
モ	2,046
ツ	1,561
パ	945
マ	568
ツ	384
ヤ	384
ウ	270
ダ	252
ン	198
ジュ	100
ラ	90
リ	58
マ	41
リ	37
ン	27
ゴ	21
キ	13
ワ	7
他	1
計	44,085

表② 国道並木の植栽計画
(昭和43~47年5年間)

並木樹種	本数
ド	12,022
マ	11,484
カ	7,036
シ	6,000
ヤ	3,805
ラ	3,000
ブ	2,900
ラ	1,980
ツ	1,930
エ	1,820
デ	1,500
モ	1,230
ツ	1,200
パ	300
マ	150
ツ	150
計	56,507

にも、海岸の潮風の吹きあたる地帯にもよく生育している。道路並木として好適な樹種で、高さ七十メートル、大形の冬芽をつけ、紫紅色を帯びた枝は円錐形の樹形とともに、冬の裸木としても趣きがある。旭川市の街路樹、近郊の並木として、秋の紅葉が稲の黄金色に相映じて一段と紅色を増して印象的である。

ナナカマドには葉の大形なオオナカマドや、高山性のタカネナナカマドとウラジロナナカマドなどの小形の種類や、庭樹として改良された種類などがあるが、アメリカでは庭樹として広く用いられ、市販品がとくに多い。

ニセアカシヤ

明治十年に欧米産樹種の先陣として、導

入種子が札幌市の勸業試験場の苗畑に播種され、十八年に、札幌市の最初の街路樹として、駅前のメインストリートに植栽された。

ニセアカシヤはアメリカ北東部の温帯地方を原産とするが、適応性が大き、虫歯害が少なく、成長がよいので、並木や街路樹としてよく植栽されている。円味をおびた樹冠と、羽状複葉の柔らかい緑の拡がった枝葉は広い道路と調和し、初夏の白い花房が開く頃は、とくに甘いかがり路に上りっぱいにたれこめて、さわやかな初夏のドラ

ポプラ

北海道大学の農場の外周や、道路の両側に植

えたイタリヤクロポプラの老木は大空たかく伸びて、鋭角に叢生した枝葉はホウキのように白雲をはきたて、微風にも葉がはたはたと音をたてている。広い平原、家畜の群れる牧場に通直に伸びあがったポプラは単調な牧歌的風景に立体感をもちあげ、都市の騒音や狭い生活にあぐら都会人に開放感を与える。しかしポプラの枝はもろいので、暴風のときなど、折れた枝がモーアに引っかかって牧草の刈取作業を困難にすることがある。

ポプラには、枝葉が横に広がるアメリカ北東部産のモニリフェラポプラや、改良さ

サクラ

並木のサクラにはオオヤマザクラ、別名エゾ

ヤマザクラが最適と思われる。このサクラ並木としては、北海道神宮境内参道第一鳥居内の二列植えの並木が有名である。明治八年、上手稲村の人・福玉仙吉氏の献植した一五〇株のサクラは、高年とともに花色のあでやかな淡紅色が濃くなっている。エゾヤマザクラは函館五稜郭、厚岸国泰寺など、本道の桜の名所に植えられている。

エゾヤマザクラは、北は樺太の南西海岸まで、東は千島の国後島にまで自生しており、寒さにたいする適応性が大きい。

本道に自生するサクラには、エゾヤマザクラの品種として花が白色で、新葉とともに開花するアケボノザクラがあり、道南地方のみに分布するカスミザクラとエゾノカスミザクラがある。カスミザクラは本州に分布するヤマザクラとエゾヤマザクラとの雑種で、花はエゾヤマザクラよりも淡色で小形である。

北方寒地性のサクラとして、花は純白色小形であるが、適応性の大きなミヤマザク

ラ、別名シロザクラがある。また、高山や千島、樺太に分布する寒地のサクラにタカネザクラとチシマザクラがある。並木用に植えているものは普通エゾヤマザクラで、花が葉に先じて咲き、花の紅色がこく、花が大形で、花軸が短かく、花の觀賞に好適している。サクラの適地は風あたりの弱い肥沃地で、とくに大衆から喜ばれるように市街地附近に植えるのが望ましい。

クロマツ

道南の海岸砂丘の飛砂防止用として、クロマツが植栽されている。クロマツの生育の北限は、青森県下北郡大間附近といわれているが、天塩海岸辺でも生育できる。小樽近郊、蘭島附近の鉄道防雪林には、大正元年植えのヨーロッパクロマツの樹林がたっている。

道央以南の、潮風の吹きあたる地帯の並木として、クロマツが適当である。クロマツは公園樹として全国的にひろく用いられ、古来から国道や参道の並木として植えられてきた。とくに本州の海岸のクロマツの並木は、白砂青松の美しい海岸風景として各地にみられるが、本道では道南の一部に壮令の林をみるにすぎない。クロマツは盆栽や庭木に植えられ、多くの栽物品種がある。

ネグンドカエデ

枝葉の形がカエデというよりは

むしろトネリコに似ているので、トネリコバノカエデとも呼んでいる。ニセアカシヤと同じく、アメリカ東部の温帯地域に分布している。

本道には明治年代から導入され、防風林や道路並木などに植えられ、挿木も容易なことから、速成の防風垣などに植えられる。本道産のエゾイタヤよりも生長が旺盛で、枝が四方に自由に張り、広い緑蔭をつくっている。しかし、道北や道東地方では、枝や梢の先が寒凍のため枯れやすく、また強風地帯では、枝や梢が風の方向になびいて樹形が軟弱の感がする。

ヤチダモ

ヤチダモは、本道の各都市の街路樹として

て処々にみられる。ヤチダモは深根性で被害に強く、とくに耐寒性が大であるが春の開筈が遅く、秋の落葉も比較的早く裸木は枝がまばらでさびしい。しかし、低湿地帯を横切る国道沿いでは、ヤチダモは好適な並木樹種で、円錐形に伸びあがる樹冠は低湿地の陰湿な雰囲気吹き払うのに適当である。

戦前の札幌の市街にはヤチダモの天然木が処々に残っていて、広い街路の傍に

通直に立っているヤチダモの巨木、大きな羽状複葉の枝を張った美しい樹姿が印象的であった。

国道の並木としては、同じ属のアオダモも適当であろう。木肌が美しく、枝葉が一層繊細で、女性的な美しさをそなえている。また本州の山地に分布するトネリコも野幌辺ではよく成育し、道産広葉樹よりも一層よい成長をしているので、アオダモと近似の美しい円錐形の樹冠の木として試植したい。

カラマツ

北海道の主要造林樹種で、毎年三万ヘクタールずつ新植されている。カラマツは国道沿いのいたるところに整然とした人工林がみられる。道路沿いにカラマツの並木があっても、周囲の風景と不調和ではない。ただ、カラマツは風の強い地帯では樹梢が上に伸びず、枝が風の方向になびき、ことに海岸寄りの道南地方では先枯病にかかりやすい。

グイマツは北方寒地性のカラマツで、カラマツほど小枝や針葉が密でないので並木としては雅趣もあり、適当かと思われる。

シラカバ

シラカバの並木は北国特有の清く美しいものである。ことに、本州からの観光客

には注意をひく樹種で、一層の増植が望まれる。しかし、美しい樹肌は除雪や心ない人々に損傷されやすく、浅く疎らな根は移植を妨げるので、単木的に植えるよりは三本ぐらいつつ群状に植えるのが適当であろう。

道北、道東地方や除雪で損傷のおそれの多い地方には、ダケカバを植えたほうが安全である。ダケカバは木肌がシラカバのように美しくなく、枝や葉が一層大形であるが、耐寒性や諸被害に強い。また林業的造林樹種としては、素材価のたかいウダイカバがあるが、道路並木としては前二者のほうが適しよう。

アカマツ

道南地方、とくに函館近郊の国道沿いに立っているアカマツ並木は本州の延長の感がして、親しみぶかいものである。札幌市にも戦前円山公園から南一条通りに沿って、アカマツの並木が立っていた。しかし、ゾウムシの被害などで年々枯損が生じ、伐採を余儀なくされた。最近、北海学園大学の校庭に立っている数十年生のアカマツの枝葉に枯れ葉が目立ってきたが、これはヒモクエダガレ病という病害と判明した。

アカマツは青森県下北半島地方が分布の北限となっているが、本道ではほとん

ど各地に生育でき、厚岸町太田の明治中葉、屯田兵時代に植えたアカマツは成長が遅いが、寒さや風に耐えてよく成育している。しかし、寒地のアカマツは被害に弱く、ことに野鼠の大発生年度には壮令木でも根元が被害をうける。

アカマツ類で耐寒性の強い種類はヨーロッパアカマツで、とくに北欧産のアカマツは幹も通直である。また最近導入されている、アメリカ北東部のレジノザマツ（アメリカアカマツ）も、ニホンアカマツより一層寒地に植えることのできるアカマツで、樹形も一層通直で均斉感が大である。

エゾイタヤ

道産樹で、身近かにみられる親しみやすい樹なので、古くから街路樹として植えられるようになった。対生の繊細な枝、緑冠の七裂の葉、開舒も早く、夏の緑蔭も濃く、早春と秋の黄葉も美しく、諸被害にたいする抵抗性も大である。札幌の大通公園には、明治年代に植えたエゾイタヤの壮令の街路樹がみられ、旭川近郊には道路並木としてエゾイタヤの木立が並んでいる。イタヤの樹冠はこんもりと円形を呈し直線の道路に柔らかな味をそえている。

エゾイタヤと近似な種に、ベニイタヤ（アカイタヤ）がある。葉が五裂で、葉

柄が紅色を帯びている。エゾイタヤと同様に、並木として好適である。

エゾイタヤより一層葉の刻れこみが深く、枝が繊細で、秋の紅葉も美しく、夏の緑も鮮やかな樹種にヤマモミジがあり葉がウチワのように円形で刻れ込みが浅く、秋の紅葉も美しいが、樹高の低いものにメイゲツカエデがある。カエデの類はいろいろの園芸品種があり、ノムラのよう四季紅紫色の葉のものも、道央以南では植栽することができよう。

カエデの類は昼夜の気温の較差の大きな内陸地帯では、紅葉がとくに美しい。樹姿と紅葉の点で、ヤマモミジの並木を一層増植したいものである。

イチヨウ

支那中部を原産とするが、わが国には古

くから導入され、扇形の葉と円錐形の樹形は東洋の樹の感が深い。暖地を郷土とする樹種なので春の開葉が遅く、冬の裸木も美しいほうでない。イチヨウは社寺の境内などには老木も立っているが、街路樹としての美事な景観は大正十四年に北海道庁前のメインストリートに植えたもので、赤煉瓦のゴシック風の建物の前景として、どっしりした緑樹帯を形成している。——未完——

（農林省林業試験場北海道支場長）